



自然の解説者

秋季号 [第 41 号] 2013 年 10 月 7 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒375-0011 藤岡市岡之郷 1179-3
櫻井昭寛 方

電話・Fax 0274-42-2726

<http://inpuri.web.fc2.com/>

編集：総務企画部会

ネイチャークラフトとは？ 子供たちに、身近な物で作る喜びを！

第7期生 吉田 幸一



私たちの協会は総務企画部会、受託協力部会、普及部会、インプリの森部会の4部会から成り立っています。受託協力部会には3つの事業があり1つは県から委託された「森の体験ふれあい事業」及びおおさる山乃家で行っている前橋市委託事業、2つ目は協力事業としての緑の募金活動事業、3つ目は小、中学校からの依頼で行う自然観察会等の学校関連事業です。

ここ数年、緑の募金事業として行っているネイチャークラフトの依頼が増えています。因みに平成24年度の緑の募金事業は、①敷島公園まつり、②花と緑のぐんまづくり2012in 前橋 ③まえばし地域づくり推進大会 ④夏休みキッズフェスタ2012 ⑤藤岡市市民活動フェスティバル ⑥元気21ボランティア活動PR事業 ⑦第2回ペゴまつりなどでした。作品一個につき100円を募金して頂き、集まった緑の募金は全て公益社団法人群馬県緑化推進委員会に納めています。

さて、ではネイチャークラフトとはなんのでしょうか？ それは私たちの身の周りにある、木の小枝、木の実、木の葉、シノ、竹、つる等の自然の素材を使う工作のことです。プラスチックなどの出来合いのパーツを組み立てる物ではなく、日常よく目にする自然の物を利用して、素朴ではあるが温もりのある作品になります。クラフトを作るにはノコギリ、ナイフ、ドリル、グルーガン、ボンド、ラミネーターなどの工具類を使用しますので、細心の注意が必要になります。特に幼児や小学生低学年の場合、どこまで本人にやらせるかの見極めが大事になりますが、出来上がった時の喜びは何物にも代え難いと思います。

現在、当協会のネイチャークラフトは竹とんぼ、シノ笛、バードコール、ネームプレート、木の人形のストラップ、竹の水鉄砲、ラミネーターによる落ち葉のしおり、などを作っています。他にもイスや本箱などの木工もしています。自主研究会のネイチャークラフトに所属している方たちが新しいアイデアを次々に提出してくれしますので、クラフトのメニューが次第に増えつつあります。皆さんの中にアイデアのある方がおりましたら、是非ご提案ください。



敷島公園まつり



まえばし地域づくり推進大会



環境森林フェスティバル

草津白根山芳ヶ平自然観察会 会員資質向上研修(4) 7月6日(土) (総務企画部会)

気持ちのいい高原の空気の中、協会員19名が参加して自然観察会を行いました。白根レストハウスから芳ヶ平への道々にはナナカマドの白花など多くの花がみられ、芳ヶ平の湿原ではツルコケモモの花が歓迎してくれました。(櫻井)

**室沢交流の森(インプリの森)整備** (インプリの森部会)

7月13日(7名参加) 林道の両側と道中に繁る草とササを刈った。

8月10日(5名参加) 前橋は最高気温38度の猛暑日となった。午前中、集中してササ刈りを行い、昼食後、倉庫の周りと駐車場を整備した。

8月24日(4名参加) 歩道と倉庫の周りを整備した。

9月7日(15名参加) 多くの参加者を得て、樹木に名札を付ける作業をした。

9月21日(9名参加) 2班に分かれてササ刈りと倒木処理をした。(吉本)

**森で遊ぼう! クラフトも作ろう!** 前橋市委託事業(1) 7月20日(土) おおさる山乃家

(受託協力部会)



夏休みの初日、3家族10人(保護者5、子供5)と協会員11名が参加しました。午前には櫻井、茂木(由)、竹之内の各講師の指導でネイチャーゲーム(ノーズ、フィールドビンゴ、カモフラージュ)を行い、午後は大澤講師の指導でクラフト作りを行いました。

ゲームでは協会員も加わり、森の中で指示された自然の宝物を探したり、自然の中に隠した人工物を探すカモフラージュなどで、楽しく遊びながら自然に親しみました。午後のクラフト作りではドングリや木の実(フジの実等)、花の種子(フウセンカズラ等)を様々に工夫し、思い思いの作品を仕上げました。(浦野)

**木工を楽しもう!** 森の体験ふれあい事業(1) 7月28日(日) 赤城木の家 (受託協力部会)

一般15名、協会員13名が参加して本立て作りを行いました。子供達も大人も、一生懸命作っていました。昔から定番の本立て、自分は何年生の時に作っただろうと、懐かしく「これで夏休みの工作の宿題が出来たね」と声を掛けると、「工作の宿題は無いですね。作文はあるけど。」の返事にショックを受けたのは私だけでしょうか。(戸丸)

自然を観察しよう! 森の体験ふれあい事業(2) 8月11日(日) 利平茶屋森林公園 (受託協力部会)

森林ボランティア班11名、一般班9名の合計20名が参加して2班に分かれて自然観察を行いました。森林ボランティア班は関端講師の指導で、まず観察コースを地図で確認し、観察に当たっての注意点、そのポイントなど細かく説明を受けました。登り始めると、すぐにカジカエダが目に入り、次々と樹木や草本についての説明がなされ、100種近い植物の観察ができました。(住谷)

一般班は須藤講師の指導で自然観察を行いました。水生昆虫採集では山椒魚が採取でき、利平茶屋周辺の自然が大変豊であることが確認できました。(五十嵐)

夏休みキッズフェスタ2013 8月23日(金) 前橋プラザ元気21 (受託協力部会)

協会員8名参加して5種類のネイチャークラフトを作成しました。あいにくの雨でしたが、例年以上の来場者があり、緑の募金も12,066円集まりました。たくさんの子供たちが喜んでくれました。(井田)

**川の生き物を調べよう! 水鉄砲を作って遊ぼう!** 前橋市委託事業(2) 8月24日(土)

おおさる山乃家にて3家族10名(保護者4、子供6)と協会員11名が参加して、午前には土屋講師の指導で「川の中の生き物調べ」を行いました。前日の大雨で川の増水と水の汚れが心配されましたが、大猿川を抱く赤城山の森の浄化作用は素晴らしく、水量の増加も水の濁りも無い中で実施する事が出来ました。子供達は顕微鏡で見たカゲロウやカワゲラのエラの動きや、ハリガネ虫のヒモ解きの見事な特技に驚き、水生生物の分類を通して大猿川の清流を実感しました。午後は井田講師の指導でピストン部分に取っ手が付き、力強く水が飛ばせる様に改良された水鉄砲を作り、暑さも忘れて水鉄砲遊びに興じました。(浦野)

赤城山シカ食害対策アミ巻きと自然観察会 会員資質向上研修(5) 9月14日(土) 赤城山厚生団地 (総務企画部会)

協会員18名と県職員1名が参加して林業試験所の坂庭氏の指導でアミ巻きを行いました。今回はウラジロモミの幹から地面までだけでなく、根元の周りも広く囲むように二段重ねに張りました。アミ巻き終了後に出張山から薬師岳、陣笠山を経て厚生団地のコースの自然観察を行いました。オタカラコウの群落、食すには早いがたわわに実ったヤマブドウ、大きな葉のウダイカンバ、実をつけたツリバナなど秋を感じた観察会でした。(茂木由)

赤城の自然を楽しもう! 森の体験ふれあい事業(3) 9月15日(日) 赤城少年自然の家 (受託協力部会)

一般2名、協会員16名が参加しましたが、台風18号の接近により雨天になり、フィールドでの研修は無理であると判断し、赤城少年自然の家の研修室での講習会になりました。亀井、関端、須藤、土屋、浦野、大谷の6名の講師が新しいテーマで話をしました。1テーマの割り当てが25分と短時間でしたが、アンケートによると様々な発見があり大好評でした。(吉田)

緑の窓

『一里塚のエノキ』……高崎上豊岡の一里塚……

第7期生 浦野 安孫

徳川初代将軍の家康は、東海道、中山道を初めとする幹線道路の整備に努め、江戸日本橋を起点に一里毎に「一里塚」を築いた。一里塚に目印となる樹木を植栽する際、家臣が「何の木を植えたら宜しいでしょうか」と尋ねると、家康は「ええ木(良い木)を植えよ」と答えたと言う。「ええ木」を「えの木」と聞き取った家臣は、全国の一里塚に「エノキ」を植え、「一里塚：エノキ」の歴史が始まったと言うエピソードが今に伝わっている。

江戸日本橋から28里に位置する高崎上豊岡の国道18号沿いには、現在も一里塚が残っている。樹齢400年を超える巨木が塚を覆い、樹下に石宮も安置されている。江戸時代には、善光寺参りや草津温泉の入湯に向かう旅行者の道標として、また旅人の疲れを癒す休息の場とし、当時、上豊岡の一里塚は特別な意味を持っていたであろう。巨樹巨木リストでは、『一里塚のエノキ、樹種：エノキ、幹囲：6, 9m、高崎市上豊岡町』と紹介されている。

しかし、現地で調査した結果、上豊岡の巨樹はエノキではなく、同じニレ科の『ムクノキ』であることが判明した。葉の表面のザラつきや形、鋸歯や葉脈の出方、何れもエノキとは異なる。また、熟した黒い実もやや大きめで表面に白い粉を吹き、正しくムクノキのそれであった。

「豊岡村誌：昭和26年版」に当たった所、「一里塚のエノキは戦前、県史蹟調査員の岩澤正作氏の調査で、椋木：ムクノキと指摘された」と記された文献にも出会い、確信は強まった。

現在、現地には、県指定遺跡「一里塚」の石柱はあるが、シンボルの巨樹の樹種を明示する看板は見当たらない。名前を明示されないのも「つらかりうに・・・」とムクノキに問うて見たが、巨樹はどこ吹く風、無言であった。

何れにせよ、「木を見て森を見ず」の諺もあるが、一本の古木から歴史の森に足を踏み入れて見るのも楽しい。



栗の花

第6期生 関端 孝雄

クリは、ブナ科Castanea(クリ)属の落葉広葉樹です。暖帯から温帯域に分布する陽樹で、かつては暖帯上部にクリ帯を見ました。現在は広く栽培され多数の品種があるようです。

雌雄異花で、尾状花序に多数の雄花とその基部に1, 2個の雌花(正しくは雌花の花序)をつけます。図1は、長い尾状花序の基部に近い部分です。

雄花は、花軸に柄のない花が7個集まっています。それは1個の花柄に集散的に3個の花が付き、更にその両花柄の前出葉を包葉にしてその葉腋から2個ずつ花を着け、計7個の集まりになります(図2)。雄花は時間をずらしながら咲きますが、この集まりの全部が咲くとは限らないようです。図3は、1個の雄花です。雄しべは花糸が長く約10本、花被は6個あり基部で合着しています。花の中央に3個の退化した子房がありますが、この写真では確認できません。雌花に対して何と膨大な数の花粉を生産するのでしょうか。花粉には、精液から検出されたというポリアミンの一種「スperlミン」を含み、独特でとても強烈な香りを放ちます。虫媒花です。

雌花は、総苞に包まれて3個入っています(図4)。縦断面を見ると1個の雌花は細長い徳利のような形をしています。花の上に飛び出している白い毛は花柱で数本あります。その下に花被が6個あり、一番下の膨らんだ部分が子房で3室からなり、子房下位です(図5)。後にイガ(殻斗)になる総苞で包まれた3個の雌花は子房の部分が次第に肥大してそれぞれ果実(堅果)を形成します。1個の果実に1つの無胚乳種子を入れます。



図1



図2

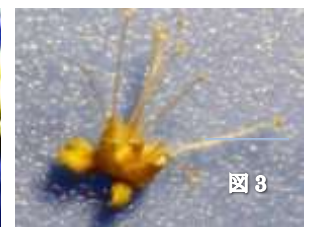


図3



図4



図5

参考資料：原色日本樹木図鑑 保育社

<昆虫の話>**第7回 無変態の昆虫**

第7期生 須藤 友治

幼虫から成虫への成長過程で形態が殆ど変化せず、脱皮によって大きさだけが変化する育ち方が“無変態”です。昆虫の祖先に一番近い姿とされる無変態の昆虫は、種全体の約0.6%にすぎないと言われています。代表的なグループとしては、トビムシ目、シミ目、カマアシムシ目などがあげられます。

無変態の昆虫の特徴は、幼虫と成虫の形がほぼ同じで変態と呼べるほどの変化がないことです。また、幼虫と成虫はほぼ同じものを食べます。

卵から孵化した幼虫は脱皮をくり返して成長を続けると成虫になります。成虫になっても翅はなく、その後も脱皮を続けるものもいます。

なお、シミは人家に生息するものが本を食害すると思われていたため、「紙魚」と書かれます。



イシノミ



シミ



トビムシ

<協会の声>**楽しくなければ意味が無い**

第10期生 茂木 清美

私は、赤城山が大好きです。小学生の頃、毎日のように音楽室から美しい裾野を眺めていました。東毛地区から眺める赤城山が一番綺麗だと思っていましたが、前橋方面に来る機会も増え、こちらからの眺めもなかなか！と思える今日この頃です。そして、協会員として赤城山の自然保護活動に参加出来る嬉しい限りです。

今年は、以前から興味があった「赤城山環境ガイドボランティア養成講座」に参加して赤城山の歴史を学びました。早速先日、前橋駅から赤城山ビジターセンターまでバスに乗り、環境ガイドをしてきました。出発から大鳥居までの案内でしたが、緊張の為満足のいく結果とはなりません。天気は雨でしたが、とても楽しい1日でした。

私はボランティアについて、自分が楽しくなければ意味が無いと思っています。楽しくなければ、参加して下さった方達に楽しんでもらえませんし、何より一緒に楽しみたいです。こんな単純な気持ちひとつですが、これからもたくさん学んでみなさんと楽しんでいけたらと思います。

**<協会が実施する事業・研修会等>**

実施日	内容	会場
平成25年10月12日(土)	10/12、10/26 室沢交流の森整備	室沢交流の森
平成25年10月13日(日)	藤岡市市民活動フェスティバル2013	藤岡市総合学習センター
平成25年10月19日(土)	前橋市委託3 秋の生き物、しおり作り	おおさる山乃家
平成25年10月26日(土)	研修6 吾妻溪谷自然観察会	吾妻溪谷
平成25年10月27日(日)	森の体験4 木の実を集めリースを作ろう	あかぎ木の家
平成25年11月1日(金)	研修7 星空観察会	県立群馬天文台
平成25年11月10日(日)	覚満淵のササ刈り作戦	赤城山覚満淵
平成25年11月30日(土)	元気21での協会活動PR	前橋プラザ元気21
平成25年12月6日(金)	研修8 生活水とゴミについての研修	前橋市浄水場ほか

<編集後記>

9月7日にサンデンフォレストの室沢交流の森において、亀井理事長、関端副理事長の指導のもと、およそ25種類ほどの樹木を判定し、参加者による樹名板の取り付けを行いました。あとは観察路の整備が済めば、自然観察会を開催できますので楽しみにして下さい。吉田(幸)